

登録コード	SC505300	開講年度	2026				
授業題目	分析化学特論					担当教員	巽 広輔
英文授業名	Topics in Analytical Chemistry I					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限	対象学年	3年
講義室	理学部第5講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ						
	【2023年度以降加修対象】理学の各分野における専門知識				分析化学の基本的な考え方を身につける。		
	【2023年度以降加修対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力				分析化学の学術論文を読んで理解し、その内容を他者へ紹介できるようにする。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	分析化学の日本語論文を題材に、その形式と内容に注目しながら、論文作成の作法を学ぶ。分析化学関連の論文を読んで理解し、その内容を紹介するための発表資料を作成する。						
(5)授業のキーワード	1. 自然科学に関する知識の応用 2. 化学技術の発展的技術を身につける						
(6)授業計画	1. ガイダンス 2. 学術論文の形式 3. 学術論文の内容 4. 研究発表の作法 5. 発表資料の作成および検討 6. まとめ（最後の15分で授業アンケートを行なう）						
(7)成績評価の方法	出席回数が授業回数の3分の2以上の学生に対し、課題の提出1回目（3割）および同2回目（7割）による評価を行う。成績は、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、不可（60点未満）の5段階で評価する。						
(8)成績評価の基準	評定については次の評価基準を基本としている。 秀： 授業の達成目標の水準から見て卓越している 優： 授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良： 授業の達成目標の水準よりやや上にある 可： 授業の達成目標の水準にある 不可（D）： 授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可（F）： 授業の達成目標の水準にない 課題に対しては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	自分が発表する論文が決まったら、まずはそれをしっかりと読み、内容を理解する。わからないことがあれば教員に質問する。要点を絞って発表内容を整理し、資料を作成する。						
(10)履修上の注意	質問があれば即座に質問すること（なるべく授業中がよい）。						
(11)質問,相談への対応	教員研究室（理学部A棟307号室）にて随時対応する。						
【教科書】	分析化学関連の学術誌である「分析化学」（日本分析化学会）を主な教材として用いる。						
【参考書】	1. ベーシックマスター分析化学, 蟻川芳子・小熊幸一・角田欣一編（オーム社） 2. 基礎から学ぶ分析化学, 井村久則・樋上照男編（化学同人） 3. 基礎から学ぶ機器分析化学, 井村久則・樋上照男編（化学同人）						